ボーリング柱状図

調　査　名

事業・工事名

ボーリングNO.										

シートNO.

ボーリング名	R2	調査位置					北　緯	36 ° 33 ’ 54.0200 ”
発注機関	栃木県 真岡土木事務所			調査期間	2008-10-20 ～ 2008-10-21		東　経	140 ° 03 ’ 05.4000 ”
調査業者名		主任技師		現場代理人		コア鑑定者		ボーリング責任者	
孔口標高	105.50 m	角度	180° 上 下 90° 0° 0.00 °	方向	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	地盤勾配	鉛直 水平 90° 0° 0.00 °	使用機種	試錐機 / ハンマー落下用具
総掘進長	10.00 m								エンジン / ポンプ

標尺 (m)	標高 (m)	層厚 (m)	深度 (m)	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記事	地層岩体区分	孔内水位 (m) / 測定月日
1	103.70	1.80	1.80		表土 (SF)	黒灰	密な		有機質シルト。 火山灰土にも感じられる。 上部0.40m位、耕作により乱され礫を含む。 0.40m下、含水比高く、粘性やや上位。軟らかい状態。 部分的に礫の混入箇所有り。		
2	103.50	0.20	2.00		砂 (S)	淡茶			細～中砂主体。細粒土分混入。		10/20 2.50
3					砂礫 (GS)	茶灰	中ぐらい		亜円礫φ5～30mmを主体にφ60mm位が散在。 2.0～3.0m間、コア長6～9cm(推定φ150～200mm内外)の玉石点在する。 礫間は中～粗砂と少量の細粒土分により緩く充填。		
4						茶褐	非常に密な		4.0m付近より礫φ40mm内外が若干目立ち、砂～細粒土分が減少。 5.0m付近より細粒土分の含有増し、砂分の混入も多くなる。 又、部分的に減少箇所もまじえ構成される。		
5											
6	99.35	4.15	6.15				中ぐらい				
7	98.80	0.55	6.70		礫混り砂 (S-G)	淡褐灰	非常に密な		礫φ5～30mm含み、中～粗砂主体。風化軽石多量に混入。		
	97.90	0.90	7.60		粘土質砂 (SC)	褐灰			細砂～中砂で構成される。固結度強い。次第に細粒土分減少。		
8	97.40	0.50	8.10		砂礫 (GS)	褐灰		固結した	亜円礫φ5～30mm多く、最大φ50mm程度。礫間は中～粗砂とやや多くの細粒土分で充填。		
9	96.50	0.90	9.00		礫混り砂質粘土 (CHS-G)	褐灰	非常に密な		礫はφ5～30mm位。砂は細～中砂。硬く固結する。砂質の強い部分有り。		
					粘土質砂礫 (GSC)	褐灰			亜円礫φ5～30mm，最大φ60mm位。 礫間は中～粗砂と多くの細粒土分により密に充填。 所々、細粒土分の含有量が多い部分がある。		
10	95.28	1.22	10.22								

標準貫入試験

深度 (m)	10cmごとの打撃回数 0－10	10－20	20－30	打撃回数／貫入量 (cm)	N値
1.15		1 / 20	1 / 16	2 / 36	2
1.51					
2.15	9	10	18	37 / 30	37
2.45					
3.15	8	10	11	29 / 30	29
3.45					
4.15	8	9	11	28 / 30	28
4.45					
5.15	14	17	19	50 / 30	50
5.45					
6.15	2	2	6	10 / 30	10
6.45					
7.15	12	22	16 / 5	50 / 25	>50
7.40					
8.15	37	13 / 4		50 / 14	>50
8.29					
9.15	50 / 9			50 / 9	>50
9.24					
10.15	50 / 7			50 / 7	>50
10.22					

原位置試験

深度 (m)	試験名および結果

試料採取

深度 (m)	試料番号	採取方法
0.70		
1.40	R2-1	T
1.80		
2.00	R2-2	T
2.00		
3.00	R2-3	T
4.00		
5.00	R2-4	T

室内試験

土粒子の密度試験
土の含水比試験
土粒子の密度試験
土の粒度試験
土の液性限界・塑性限界試験
土の圧密試験
土の一軸圧縮試験

掘進月日
10/20
10/21